



♣グリーン電力出資金出資者
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

グリーンコープでんき通信 VOL.13



2018年7月23日発行
一般社団法人グリーン・市民電力

視察報告②

見てきました！ 今の東京電力福島第一原子力発電所

原発事故から7年経った福島第一原発はどのような状況なのでしょうか。私たち市民は、なかなか事故を起こした原発の、その様子を知る機会がありません。

4月10日、東京電力福島第一原子力発電所を視察できる機会があり、現地を訪問してきました。前号に続く第2回目の視察報告は、事故を起こした原発の現在の様子です。

一般財団法人ふくしま自然エネルギー基金の代表理事佐藤彌弥右衛門さん、環境エネルギー政策研究所所長飯田哲也さんの尽力を得て実現したこのたびの視察で、グリーンコープから参加したのは、日常、自然エネルギーの発電所づくりや「グリーンコープでんき」の小売事業などに関係しているメンバー6人。事故を起こした原発内に入ることへの張りつめた緊張感とともに専用バスに乗り込み、構内を巡りました。



◆事故直後の福島第一原発

- 1号機…水素爆発。現在使用済核燃料の取出し準備中。
- 2号機…水素爆発せず建屋が残り、外見上は何も変わっていないが、放射性物質が飛散しなかったため、内部の線量が高い。現在内部調査のための足場建設中
- 3号機(MOX燃料)…水素爆発。使用済核燃料取出し準備中
- 4号機…3号機からの水素によって爆発。定期検査中で原子炉に燃料はなかった。燃料プールから核燃料取出しは終了



1号機

事故直後、放射性物質飛散防止のためカバーで覆われていた。現在は燃料プールから核燃料取出し準備中



3号機

建屋上部が吹き飛ばされた。その撤去作業が終わり、使用済核燃料取出しのためにカバー設置中。2018年度取出しが始まる



3号機側面
(2号機に面している)

視察バスが2号機と3号機の間を道を通った時の線量計が600~1000 μ SVにも上がった。人は長時間の作業はできない



4号機

建屋は水素爆発で破損。心配された建屋上部の燃料プールに保管されていた核燃料の取出しは1年かけて終了。写真は取出しのためのタワー

目標工程

- 燃料取出し開始…1号機と2号機は2023年度目処。3号機は2018年度
- 燃料デブリ取出し…初号機の取出し方法の確定は2019年度。初号機の取出し開始は2021年度

【お詫び訂正】

前(12)号1Pの写真キャプションに間違いがありました。訂正してお詫びします。(誤)2409 μ SV(正)2.409 μ SV

「原発フリー」をめざす“グリーンコープでんき”。それなのに、大手電力会社に支払う「託送料金（電線使用料）」には、原発に使われる費用が含まれています。それは不自然でおかしくないかと考え、九州電力にどうしてそうなるのか、お尋ねしています。
《その12》

2020年4月から、託送料金の中に、原発のための新たな負担金として、「賠償負担金」「廃炉円滑化負担金」という2つが新たに転嫁されることが、経済産業省内で決められようとしています。

＜シリーズ第6回＞

前号から、経済産業省が新たに決めようとしている「廃炉円滑化負担金」の話に入っています。前回はそれが必要とされる「説明」について疑問に思うことを紹介していました。今回は、その「実額」が示されず、いわば“白紙委任”のように、どれだけ増えるか分からない原発の廃炉費用を長期間国民に負担させようとしている疑問点を紹介します。これも経済産業省にお問い合わせしています。概要は次のとおりです。

- (一) 「賠償負担金」が2.4兆円と示されているのに対し、「廃炉円滑化負担金」の試算は示されていません。「その規模は、廃炉を判断する時点等の要因によって異なるため、予断をもってお示しすることは困難と考えております。」「廃炉円滑化負担金の額等について通知を受けた一般送配電事業者が託送料金を値上げする場合には、託送料金の原価に盛り込まれる廃炉円滑化負担金相当金の金額についても公表する方針です。」となっているようです。
- (二) 額がどれ位になるのかが分からないものを白紙委任することはできません。どのように計算していくのかといった考えや想定だけでも教えてほしいと思います。現在廃炉が決定されている玄海原発1号機を例としてお尋ねします。
- 1) 分かっているのは以下の事柄です。
 - ・ 2016年10月貴省からの発表によれば、玄海原発1号機の解体引当金総見積額は366億円です。
 - ・ 九州電力からの玄海原発1号機廃炉の発表は2015年3月。廃炉会計制度ができたことが廃炉決定の理由に挙げられていました。九州電力の有価証券報告書では、2014年度第91期報告の「設備一覧」注記として「平成27年（2015年）4月27日付で廃
 - 止となった。」の記載がありました。第91期と第92期分に、特別損失計上の報告はありません。
 - ・ 昨（2017）年7月13日付日本経済新聞記事には、「廃炉にかかる費用を九電は365億円と見積もっている。9割超の338億円を引当て済みで、残る約26億円を今後8年かけて定額で引当てる計画だ。費用が想定通りであれば、財務への影響は限定的とみられる。」とありました。
 - 2) お尋ねしたいのは以下の事柄です。
 - ・ 貴省発表の資料で「解体引当金総見積額」とあるのが廃炉費用の想定であると考えて間違いはないですか。
 - ・ 「玄海1号機の引き当てを338億円している」と記事にあることから、各機毎に引当額が計算されている、ということですか（ちなみに九州電力の2016年度期末の「資産除去債務」は2,151億1,800万円とあり、これが廃炉のための引当金総額と思われるのですが、間違いはないですか）。
 - ・ 「玄海1号機の廃炉見積りが365億円」とあり、これは貴省からの発表とほぼ同額です。この見積額はどのように算出しているのですか。



- ・「残る26億円を特別損失処理していない」ということが、つまり、「廃炉会計制度を使う」という意味ですか。
 - ・「今後8年かけて」というのは、いつから始まっていつまでですか。
 - ・2020年から「廃炉円滑化負担金」が措置化されたときに、九州電力がそれを使って何らかの計算をして「廃炉円滑化負担金」額を決めて貴省に通知して、それが決定額ということになるのですか。
 - ・その場合、計算の仕方とかは決まっているのですか。玄海1号機で言えば、不足とされる26億円がそのまま「廃炉円滑化負担金」の額となるのですか。
- 3) 九州電力全体の原子力発電所もそれと同じ考え方になるのですか。教えてください。
- ・2016年貴省からの発表によれば、九州電力の全原発（玄海1～4号と川内1～2号）の「解体引当金総見積額」は3,099億円となっています。また2016年度末の九州電力の有価証券報告書記載の「資産除去債務」額は2,151億1,800万円です。その差額が約948億円あります。
 - ・つまり、これは、「全原発の廃炉にかかる費用を3,099億円と見積もっている。7割の2,151億円を16年3月期までに引き当て済みで、残る

約948億円を今後一定年限をかけて定額で引き当てる。」のように理解して間違いがないですか。この948億円が「廃炉円滑化負担金」総額になっていくのですか。

<補足>お問い合わせにあたって二点補足します。

①具体的には九州電力にあらためてお尋ねするつもりです。ただ、この間の質問に対して、九州電力からは「省令で決まっています。」というお答えが多く、この質問も九州電力だけでなく貴省に予め考え方を聞いておかないといけないと思ったので、まず貴省にお問い合わせしました。

②総廃炉費用見積で「926億円が不足」と記しているのは、2017年3月時点でもし全原発が廃炉と決まっていたらの場合としてお尋ねしています。今後とも資産除去債務の引当は年々増えていくことは承知しています（平成27年度第92期と翌第93期で「原子力発電施設解体費」が両年度とも約46億円が費用計上されていました）。実額を知るための考え方として間違いはないかをお尋ねしているところご理解ください。

玄海1号以外に、関電の大飯1、2号機、四国電力の伊方1、2号機、中国電力の島根1号機、東電の福島第二原発すべての廃炉が決まりつつあります。電力会社以外に、日本原電の東海原発・敦賀1号機、文科省管轄の高速増殖炉もんじゅ・東海再処理施設の廃止も決まっています。これらの費用は誰がどのように負担することになっているかも問い合わせています。次号で紹介いたします。

以上



■ グリーンコープでんき

- ・グリーンコープでんきの契約数は、7月2日現在、生協事業所やGC商品のお取引先も含め、下表のとおりです。(※供給開始前含む)

単協	契約件数	契約容量(kW)
GC生協おおさか	53	229 kW
GC生協ひょうご	22	109 kW
GC生協とっとり	37	169 kW
GC生協(島根)	59	236 kW
GC生協おかやま	76	304 kW
GC生協ひろしま	95	417 kW
GCやまぐち生協	563	2,324 kW
GC生協ふくおか	1,766	7,329 kW
GC生協さが	95	444 kW
GC生協(長崎)	134	553 kW
GC生協くまもと	466	2,124 kW
GC生協おおいた	272	1,103 kW
GC生協みやざき	131	469 kW
GCかごしま生協	211	897 kW
事業所向け(低圧)	9	41 kW
事業所向け(高圧)	55	4,244 kW
合計	4,044	20,992 kW

■ H29年度二酸化炭素排出係数を、経産省へ報告しました。

- ・グリーンコープでんきは、「原発フリーのでんき」をめざす電気です。
- ・実験展開スタート時の2016年7月以外は原発の電気が含まれる可能性がある電気は一切供給していません。
- ・これからも、原発の電気をお届けしないことを最優先に、電気の調達を行なっていきます。
- ・そのような中で、できるだけ再エネ電源比率を高め、二酸化炭素排出係数も下げていきたいと考えています。
- ◆H29年度の二酸化炭素排出係数(電気 kWh 当りの排出量)は、0.362(kg-CO2/kWh)でした。
- ・H28実績(0.411(kg-CO2/kWh))と比較して kWh あたり 0.049kg 減少しました。
- ・電気の使用量(kWh)に、この0.362 をかけると、自分が使ったでんきを発電するために排出された二酸化炭素を計算できます。
例えば 300kWh の電気を使うと 108.6kg の CO2 を排出したことになります。

■ 6月にお届けした電気の電源は？

- ・関西電力エリア：
大阪府のふたつの清掃工場(燃料：一般ゴミ)
- ・中国電力エリア：
島根県のバイオマス発電所(燃料：木材チップ)と清掃工場(燃料：一般ゴミ)の2カ所
- ・九州電力エリア：
福岡県、鹿児島県、大阪府、兵庫県の清掃工場(燃料：一般ゴミ)の4カ所
- ★6月も原発の電気は含まれていません。

■ 市民発電所

- ・グリーン・市民電力が保有している発電所の2018年4月の実績です。6カ所の発電所は順調に稼働しています。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	141,570	5,662,800
平池水上太陽光発電所	1,260	160,175	5,766,300
深年太陽光発電所	1,550	215,444	7,755,984
若宮物流センター	47	5,863	216,931
広島物流センター	47	6,061	224,257
やまぐち西部地域本部	54	7,211	237,963
合計	4,015	536,324	19,864,235

■ グリーン電力出資金

- ・皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、8億4,543万円になりました。
- ・また、出資目標額(積み立て目標額)は、6月26日現在で10億9,234万円となりました。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	226	253	18,340,000
GC生協ひょうご	105	127	8,716,000
GC生協とっとり	141	152	10,960,000
GC(島根)	219	225	11,340,000
GC生協おかやま	157	171	12,050,000
GC生協ひろしま	665	761	71,345,000
GCやまぐち生協	606	695	44,240,000
GC生協ふくおか	5,294	5,970	517,824,000
GC生協さが	328	363	43,805,000
GC生協(長崎)	585	643	56,725,000
GC生協くまもと	1,506	1,689	125,029,000
GC生協おおいた	789	870	69,764,000
GC生協みやざき	302	335	27,235,000
GCかごしま生協	706	774	74,962,000
合計	11,629	13,028	1,092,335,000

- ・グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費用などの一部に充てています。
- ・2018年6月末の支出総額は8億1,115万円で、残高は3,428万円となっています。
- ・市民発電所の建設について、継続して調査や検討をすすめていますので、今後ともグリーン電力出資へのご参加をよろしく願います。

これまで出資いただいた金額	845,430,000
これまで支出した事業と金額	811,148,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー電所(建設中)ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(準備中)、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	34,281,779